

午後Ⅰ試験

問 1

問 1 では、建設業におけるグローバルな環境での業務遂行体制の確立について出題した。題意や状況設定は、おおむね理解されているようであった。

設問 1(1)では、海外子会社は情報システムなどの管理業務に掛けられる予算は少ないという状況を把握し、抵抗勢力にならないために考慮すべきことを解答してほしかった。しかし、単に“説明する”という解答が多かった。相手の状況を理解して、アクションプランが円滑に受け入れられるようにするために考慮しておくことの重要性を理解してほしい。

設問 1(2)の要員面の対策では、“要員を増やす”という解答が多かった。本社システム部がコストセンタであり、要員の補充が難しいという状況の中で、サーバの運用負荷を低減してサポートにまわす時間を確保する対策が求められていることを理解してほしい。

IT ストラテジストは、IT を活用できる業務遂行体制の確立のための提案能力を高めてほしい。

問 2

問 2 では、食品メーカーの業務改善について出題した。題意や状況設定は、おおむね理解されているようであった。

設問 1(2)では、物流業務の改善によって顧客の要望に対して可能となった点について解答を求めているが、自社の営業業務の改善に関する解答が多かった。複数の倉庫から 1 か所の物流センタで在庫を一括管理するように変更することによって倉庫間の製品の補充をなくせることに気付いてほしい。

設問 3(1)では、他社製品の取扱いの見直しによる利益改善の施策について解答を求めているが、顧客への訪問時間の確保が可能となることによる営業業務の改善や、他社の物流コスト改善に関する解答が多かった。本社の営業部が発注をまとめて行うことによって価格交渉の優位性が高まることに気付いてほしい。

IT ストラテジストは、事業戦略を実現するための業務改善の検討能力、及び IT を活用した情報化計画の提案能力を高めてほしい。

問 3

問 3 では、地方公共団体における IT 管理について出題した。題意や状況設定は、おおむね理解されているようであった。

設問 1(1)では、適切な費用を主管課が主体的に決定していけるようなルールの解答を期待したが、庁内で整合性のある費用の積算にまで踏み込むことができない“相見積りを取る”のような解答が一部に見られた。

設問 2 では、投資種別によって投資額の割合に差異がある理由を問うたが、政策事業や施策の影響を原因とする解答が一部に見られた。それらは背景として挙げ得るが、IT 管理の仕組みに課題があることも気付いてほしい。

設問 3(1)は、評価結果が実態と合わないことに対する普遍的な解答を期待したが、“サービス利用者数や業務負荷を評価に加える”のような発見された特定事象への対策にとどまった解答が一部に見られた。第三者の活用を考えている情報政策課の状況に気付いてほしい。

IT ストラテジストは、IT ガバナンスの仕組みの構築や IT 管理の能力を高めてほしい。

問4

問4では、産業機械メーカーの製品企画について出題した。全体として正答率は高く、題意や状況設定は、おおむね理解されているようであった。

設問1では、製品企画について解答を求めた。D社の方針及び既存市場と新市場それぞれの特徴を基にした解答を期待したが、製品の特徴を答えた解答も一部に見られた。

設問2(2)では、生産段階でもたせるべき競争力と施策を問うたが、製品の機能など設計段階でもたせるべき競争力と施策を記述している解答が見られた。

設問3では、機能追加の検討について解答を求めた。正答率は高かったが、使用者を制限する場合と使用する場所を制限する場合を混同した解答も一部に見られた。

特に新規性の高い製品を企画する場合、ITストラテジストは、市場の状況を十分分析した上で、将来も含め競争力のある製品展開戦略と製品販売戦略を策定し、推進できる能力を身に付けてほしい。